

令和3年度事業報告書（2021.4.1～2022.3.31）

公益財団法人 美術工芸振興佐藤基金

I. 事業の概要

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大が収束しない状況でした。石洞美術館は千住金属工業株式会社の建屋内にあり、感染予防・拡大防止のため、美術館は1年間通して休館と致しました。

表彰事業としては前年度の淡水翁賞の授賞式を中止致していただきましたので、12月2日に授賞式を開催し、受賞者3名に淡水翁賞を授与致しました。

本年度は9月に淡水翁賞の募集を開始し8人の応募者がありました。2月にWeb会議での選考委員会を開催し4名が選考されました。

助成事業は9月に応募を開始し12月20日に締め切り、3件の応募がありました。2月にWeb会議での選考委員会を開催し2名が助成金の対象に選考されました。

また、長年美術館事業に携わってきた学芸員2名が令和3年3月末で退社し、今年度は新人が6月に1名、8月に1名入社しました。

新型コロナウイルスの感染終息後の活動を見据えて、令和4年度は展覧会を開催すべく、所蔵品の調査研究を行いました。

II. 事業毎の概要

1. 美術工芸等に関する資料の収集、保存、調査研究、展示及びそれらの資料を活用した事業

(1) 石洞美術館

① 展覧会

- ・新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止のため、石洞美術館は休館とし、展覧会は開催しませんでした。

② 作品の貸出

- ・掛け軸「首里城之図」と「琉球那覇市街図」を東京国立博物館で2022年5月3日（火）～6月26日（日）、九州国立博物館では2022年7月16日（土）～9月4日（日）まで沖縄復帰50年記念特別展「琉球」に出品する事になりました。

③ 作品の修理

- ・掛け軸「首里城之図」は経年変化で以前に修繕された部分の剥がれや浮きがありましたので糊を差し修繕し、掛緒も交換しました。

④ 令和4年度の展覧会準備

- ・令和4年度に開催を予定している「第50回記念伝統工芸日本金工展」、「朝鮮のやきもの展」、「古染付展」をより充実したものとするため、作品資料の調査研究を行いました。

⑤ 地域との連携活動

- ・令和4年度は公益社団法人日本工芸会に協力し、第50回記念伝統工芸日本金工展を石洞美術館で開催します。その展覧会に地元の小・中学生や区民を招待する為、区役所と連携し準備を進めています。

⑥ 美術品の購入

- ・15代坂倉新兵衛作の陶磁器3点と坂倉正紘作の陶磁器を1点を購入しました。
灰被花器（菖蒲の絵） 幽寂茶盃 白釉茶盃 1 祠赤土茶盃

⑦ 作品のテレビ放映

- ・7月2日放送のNHK BS4Kの「美の壺」で所蔵作品の古染付「染付寄向付（海の幸山の幸）八客」「染付魚型向付 五客」「染付海老形向付 五客」が紹介されました。
- ・11月13日、12月15日放送のNHKBS1「祈りの首里城～デジタルでよみがえる姿」の中で所蔵作品の「首里城之図」の写真が放送されました。

2. 美術工芸等の創作活動、調査研究及び普及活動に対する表彰及び助成事業

(1) 表彰事業 淡水翁賞（若手金工作家奨励賞）

令和2年度に実施されなかった第36回淡水翁賞の授賞式を12月2日に実施し、最優秀賞に小田薫氏、優秀賞に水代達史氏、高橋健吾氏、の3名に賞状と副賞をお渡ししました。 賞金総額 1,000,000円

令和3年度の第37回淡水翁賞の選考を行い、畠春斎氏、平野英史氏、が最優秀賞に、西田幸子氏、田口史樹氏が優秀賞に選出され3月24日に授賞式を実施致しました。 賞金総額 1,200,000円

(2) 助成事業

助成金の選考委員会が2月8日に開催され、下記が選考されました。

- ① 松島さくら子「アジア漆の造形と祈り展 展覧会とシンポジウム」
- ② 佐々木類 「ポーランド日本庭園での展覧会に向けての作品制作：北欧の天気をテーマとしたガラスでの表現の研究」

以上2件総額 720,000円

附属明細書について

令和3年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書を作成しない。

令和4年4月

公益財団法人美術工芸振興佐藤基金